

公立大学法人金沢美術工芸大学
平成30年度業務実績報告書
訂正一覧表

令和元年7月

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標

ア 学士課程教育にあつては、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、教養教育と専門教育を行い、学位授与方針に定める汎用的な教養と専門的な造形力を修めた職業人を育成するとともに、学部を本学の教育拠点と位置づける。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(7) 学士課程教育を、本学の教育拠点として位置づけ、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、これに相応しい教育を実践する。</p> <div data-bbox="71 783 779 979" style="border: 2px solid yellow; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〔質問・意見等〕 3つのポリシーの連関性について、どのように検証したのか、その結果どうだったのかを具体的に記述すること。</p> </div> <div data-bbox="71 1043 779 1453" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〔修正対応〕 ○本学では、「芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材」(大学憲章)を育成することを社会から負託された使命であると考え、「学位授与方針(DP)」 「教育課程編成方針(CP)」 「学生の受入方針(AP)」を定め、それぞれの関係性について複数の委員会で確認、検討しており、DPの達成のために、全学的な組織である教務委員会でCPIについて、同じく全学的な組織である入試委員会でAPIについて協議する体制が構築されている。 (次頁へ続く)</p> </div>	<p>(7) 大学及び学部の目標、教育目標、3つのポリシー等の連関性について不断に検証する。</p>	<p>○本学では、「<u>芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材</u>」(大学憲章)を育成することを社会から負託された使命であると考え、「<u>学位授与方針(DP)</u>」「<u>教育課程編成方針(CP)</u>」「<u>学生の受入方針(AP)</u>」を定め、それぞれの関係性について複数の委員会で確認、検討している。<u>具体的には、DPの達成のために、全学的な組織である教務委員会でCPについて、同じく全学的な組織である入試委員会でAPについて協議する体制が構築されており、各委員会において、3つのポリシーの連関性や整合性を全学レベル及び学部レベルでPDCAサイクルが適切に機能しているかを検証した。</u> ○また、DPを達成することを目的に、29年度の教務委員会で導入を決定した、<u>新たな単位認定の評価基準(29年度以前の入学者は単位認定の最低到達点を50点としていたが、30年度入学者より最低到達点を60点とし、併せて、成績評価は特に秀でた100点から90点の場合、成績表に「S」の表記をする)を30年度から実施した。新しく創設したS評価については、年度末の同委員会で、受講者数に対する割合を定めた相対評価ではなく絶対評価とすることを確認し、その評価の状況を全専攻の教務委員に開示して、議論することにより、S評価の割合が適切な範囲内に収まっていることを検証し、31年度以降の運用方法について意見交換した。</u> ○更に、DPを達成するため、APについても入試委員会において、<u>一般選抜試験ならびに特別選抜試験(推薦入試)を検証し、ともにAPに基づいた選抜内容・方法であることを確認するなど、継続して検証を行った。</u></p>	<p>Ⅲ</p>		<p>資料1-1 資料1-2 資料1-3 資料1-4 資料1-5</p>

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）


(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>〔修正対応〕(前頁より)</p> <p>○具体的には、在学中の学外での発表活動や公募展での受賞実績等に基づき、全学的な「KANABIクリエイティブ賞顕彰事業」を行うとともに、卒業・修了時には金沢21世紀美術館で卒業・修了制作展を開催して、年度末にDPの達成度の確認に努めた。加えて、美術科・工芸科の学生については、卒業後の個展開催や公募展への出品など芸術活動の継続状況の検証、デザイン科の学生については、ほぼ100%の就職率を重視して企業側へのヒアリングによる検証を行った。</p> <p>ODPを達成するためのCPに基づく学力の保証を目的に、30年4月入学者より新たに導入した単位認定の評価基準(単位認定の最低到達点を50点から60点に変更し、特に秀でた100点から90点の成績を「S」と表記する)については、年度末の教務委員会で、受講者数に対する割合を定めた相対評価ではなく絶対評価とすることを確認し、その評価の状況を全専攻の教務委員に開示して議論することにより、S評価の割合が適切な範囲に収まっていることを検証した。</p> <p>OAPIについてもDP・CPとの関連性を踏まえ、入試委員会において、一般選抜試験ならびに特別選抜試験(推薦入試)がAPIに基づいた選抜内容・方法であることを確認するとともに、各専攻での入試記録などを活用した検証を行い、入学者の質の確保に努めた。</p> <p>○また、学長のガバナンスのもとで、教育研究審議会を中心とする全学的なマネジメント体制を強化し、大学及び学部目標、教育目標、3つのポリシー等の関連性や整合性を全学レベル及び学部レベルで検証し、PDCAサイクルが適切に機能していることを確認した。</p>			III		資料1-1 資料1-2 資料1-3 資料1-4 資料1-5

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	ア 学士課程教育にあつては、学部教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、教養教育と専門教育を行い、学位授与方針に定める汎用的な教養と専門的な造形力を修めた職業人を育成するとともに、学部を本学の教育拠点と位置づける。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(イ) 教養科目においては汎用的能力を培う教育を実践し、基礎科目においては多様な表現力を養う教育を実践する。</p> <div data-bbox="78 821 689 1189" style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; background-color: yellow; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(3～4行目)「～考察・理解できる」とし、「ようになった」を削除すること。 ・(2つ目の○)段落を分けず1つ目の○に続けて記述すること。 ・「共通工房」が全国的にも珍しい(難しい)取り組みであることが分かるように記述すること。 </div>	<p>(イ) 学部教育の目標及び各科・各専攻の教育方針に基づき、学部教育の在り方を検討し、新キャンパス移転に向けた計画の策定に着手する。</p>	<p>○DPに掲げる「2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的スキルを修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できるようになった」という学習成果の達成のため、教養科目として「キャリアデザイン」「金沢の文化行政」を31年度より新設することを決定した。</p> <p>○「キャリアデザイン」は実務経験のある教員による、学生が将来にわたって自己の専門的スキルを社会の中でどのように用いていくのかを考えさせるものであり、学部1年生を対象に、後期に開講することとした。また「金沢の文化行政」は金沢市の協力を得て開講される科目であり、学生が深く地域と関わるような知識を与えるために学部1年生を対象に前期に設定した。</p> <p>○CPに掲げる「2. 専門教育科目の基礎科目においては、自専攻・科以外の分野を選択履修し、さまざまな技法や素材に触れ、多様なメディアを用いた表現や複合的な表現が可能となる科目編成とする」という事項を踏まえた教育課程の更なる強化のため、「新キャンパス配置検討ワーキンググループ」を31年2月に立ち上げ、複数の専攻で共有する「共通工房」の在り方の検討を開始した。</p>	IV		資料1-2 資料1-3 資料2-1 資料2-2 資料2-3
	 (次頁へ)				

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
	<p>【修正対応】（前頁より） ODPIに掲げる「2. 美術・工芸・デザインの分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに専門的技術を修得し、自己の創造的活動を歴史及び社会と関連付けて考察・理解できる」という学習成果の達成のため、教養科目として「キャリアデザイン」「金沢の文化行政」を31年度より新設することを決定した。「キャリアデザイン」は実務経験のある教員による、学生が将来にわたって自己の専門的技術を社会の中でどのように用いていくのかを考えさせるものであり、学部1年生を対象に、後期に開講することとした。また「金沢の文化行政」は金沢市の協力を得て開講される科目であり、学生が深く地域と関わるような知識を与えるために学部1年生を対象に前期に設定した。 OCPIに掲げる「2. 専門教育科目の基礎科目においては、自専攻・科以外の分野を選択履修し、さまざまな技法や素材に触れ、多様なメディアを用いた表現や複合的な表現が可能となる科目編成とする」という事項を踏まえた教育課程の更なる強化のため、「新キャンパス配置検討ワーキンググループ」を31年2月に立ち上げた。このワーキングにおいて、領域の横断化の実現、学部・大学院を通じた汎用的能力の滋養の強化を目的に、美術系大学では全国的にも珍しい大規模な「共通工房」という新たな構想について、その連関性や配置などの在り方の検討を開始した。</p>		IV		資料1-2 資料1-3 資料2-1 資料2-2 資料2-3

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標

ウ 定められた学位授与基準、学位審査基準、成績評価基準を厳正に適用し、また不断に検証することによって、芸術系大学に相応しい教育の成果の測定指標を作成し、教育の質を保証する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(7) 成績評価システムの総合的な検証を行い、公平性、透明性、厳格性が担保された成績評価を行うとともに、その検証システムを実質的に機能させる。</p>	<p>(7) 引き続き、教務委員会を中心に、成績評価の在り方を検証し、シラバスの研究と見直しに努める。</p>	<p>○30年度入学者より、新たな単位認定の評価基準を導入した。具体的には、29年度以前の入学者は単位認定の最低到達点を50点としていたが、30年度入学者より最低到達点を60点とし、併せて、成績評価は、特に秀でた100点から90点の場合、成績表に「S」の表記をすることとした。導入初年度となる30年度は、特に「S」評価について適切に運用されるかを注視し、成績評価前の運用について周知を行った。</p> <p>○また、年度末の教務委員会で、受講者数に対する割合を定めた相対評価ではなく絶対評価とすることを確認し、その評価の状況を全専攻の教務委員に開示して、議論することにより、S評価の割合が適切な範囲内に収まっていることを検証し、<u>31年度以降の運用方法について意見交換した。</u></p> <p>○シラバスの「成績評価」欄には、新設した「S」評価の基準を科目毎に明記することで、これまでの評価との違いについて学生への周知を図った。</p>	<p>Ⅲ</p>		<p>資料1-5 資料12 資料12-2</p>

【質問・意見等】

項目番号1の記述に併せ、必要に応じて修正すること。

【修正対応】

○新設したs評価については、年度末の教務委員会で、受講者数に対する割合を定めた相対評価ではなく絶対評価とすることを確認し、その評価の状況を全専攻の教務委員に開示して議論することにより、S評価の割合が適切な範囲に収まっていることを検証し、31年度以降の運用についてもこの検証方法を実施することを確認した。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	ウ 定められた学位授与基準、学位審査基準、成績評価基準を厳正に適用し、また不断に検証することによって、芸術系大学に相応しい教育の成果の測定指標を作成し、教育の質を保証する。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 教育成果を検証するため、芸術系大学としての本学の特性を調査研究し、その特性に応じた教育成果の検証を実施するとともに、教育成果の測定指標（アウトカム・アセスメント）を作成し、教育における内部質保証を行う。	(カ) 卒業時・修了時の学生アンケートを実施し、またアンケート結果を分析して、教育成果の検証を行い、授業改善に活用する。	○全学的に卒業生・修了生の意見を取り入れる仕組みを構築するため、卒業・修了の確定した全学生に対して大学教育全般についてのアンケートを実施し、結果をホームページで公開するとともに、自己点検・評価実施運営会議及び各科・専攻、一般教育等の教育研究組織において教育成果の検証を行った。例えば、アンケートのうち、就職活動、留学や進学、作家としての自立活動などに関して、学生自身が役に立ったと感じている大学の取り組みとしては、アーティスト講演会やワークショップと答えた学生が最も多く、こうした授業外での講演等が将来の進路を考えるうえで教育成果をあげている点を確認することが出来た。また、要望が多かったネットワーク環境の充実にも対応することとし、31年度に予算化した。	IV Ⅲ		資料17-1 資料17-2 資料17-3 資料17-4

【質問・意見等】

- ・「例えば」以降を2つ目の○に分けて記述すること。
- ・アンケート回収率の高さに加え、学生へのフィードバックや要望への対応が計画以上にできていることを明確に記述した上でIV評価に修正すること。



【修正対応】

○例えば、アンケートのうち、就職活動、留学や進学、作家としての自立活動などに関して、学生自身が役に立ったと感じている大学の取り組みとしては、アーティスト講演会やワークショップと答えた学生が最も多く、こうした授業外での講演等が将来の進路を考えるうえで教育成果をあげている点を確認することが出来た。

○アンケートの回収率は80%を越えており、このアンケート結果の分析・検証に基づく教育環境の改善について30年度は、駐輪場の拡充、美大ホール前の外灯の増設、彫刻専攻教室内の空調設備設置などの環境改善を行った。また、要望が多かったネットワーク環境の充実にも対応することとし、31年度に予算化した。

【自己評価IVに変更】

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標

ア 学士課程教育にあつては、学部の教育目標及び各科・専攻の教育方針に基づき、教養教育と専門教育を行い、学位授与方針に定める汎用的な教養と専門的な造形力を修めた職業人を育成するとともに、学部を本学の教育拠点と位置づける。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(イ) 教育成果を検証するため、芸術系大学としての本学の特性を調査研究し、その特性に応じた教育成果の検証を実施するとともに、教育成果の測定指標（アウトカム・アセスメント）を作成し、教育における内部質保証を行う。</p>	<p>(キ) 教育成果の検証を行うために、引き続きアウトカム・アセスメントの指標の策定を行う。</p>	<p>○卒業時に金沢21世紀美術館で卒業・修了制作展を開催し、DPの達成度を検証している。特に、美術科・工芸科の学生については、キャリア支援室設置要綱に基づき、学生の中長期的な支援を目的に、教育成果の測定指標として芸術活動の継続状況の検証を行った。具体的には、卯辰山工芸工房等で活動を継続する学生の把握に努めた。</p> <p>○加えて、美術科・工芸科の教育成果の測定指標として、学外での発表活動や公募展での受賞実績も重視しており、年度末には全学的なKANABIクリエイティブ賞顕彰事業を行っている。一方、デザイン科の教育成果の測定指標としては、一部上場をはじめとする企業への就職を重視しており、その就職率はデザイン3専攻でほぼ100%となっており、大きな成果をあげている。</p>	III		資料18

【質問・意見等】

- ・“美術系大学の特性により、指標の設定が困難である”旨を記述すること。
- ・“何が教育成果の指標になり得るのか、引き続き検討する”旨を記述すること。



【修正対応】

○美術系大学における測定指標の策定については困難な点もあるが、アウトカム・アセスメントの策定の重要性は十分に認識しており、美術系大学の特性に則したものとするための検討を継続的に行っている。具体的には、在学中の学外での発表活動や公募展での受賞実績等に基づき、全学的な「KANABIクリエイティブ賞顕彰事業」を行うとともに、卒業・修了時には金沢21世紀美術館で卒業・修了制作展を開催して、年度末にDPの達成度の確認に努めた。

○加えて、美術科・工芸科の学生については、卒業後の個展開催や公募展への出品など芸術活動の継続状況の検証、デザイン科の学生については、ほぼ100%の就職率を重視して企業側へのヒアリングによる検証を行っており、「中長期的な芸術活動の継続性」や「企業内デザイナーとしての活動」等が測定指標にできないかを引き続き検討していくこととした。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標	ア 教育拠点として位置づけられる学部教育、研究拠点として位置づけられる大学院教育において、それぞれの目標を達成するために必要な組織の見直しを行い、教員の適正配置を行う。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(7) 教員配置計画及び大学院改革に伴う組織改編に基づき、教員の適正配置、定数管理を行う。また、大学院指導教員資格基準に基づく資格審査を計画的に実施する。	(イ) 大学院指導教員資格基準に基づき、大学院改革を視野に入れた指導資格審査を計画的に実施する。	<p>○30年度新たに、大学院美術工芸研究科における教員指導資格審査基準に基づき、学外有識者を含む大学院指導資格審査会を立ち上げ、全教員に審査を受けることを課した上で、現行の修士課程及び博士後期課程における個々の教員の基礎判定を行った。その結果を基に教育研究審議会において内容を審査し指導資格を決定することで、大学院改革を視野に置いた指導体制の厳格化を図った。</p> <p><u>【再掲15】</u></p> <p>○また、31年度採用予定者2名（芸術学専攻、一般教育等）についても教員指導資格審査基準に基づく審査を行い、採用を決定した。</p>	IV		資料19-1 資料19-4

【質問・意見等】
 資格審査について、“これまでは採用時のみでそれ以降は任意だったものを全教員に拡大した”ことが分かるように記述すること。



【修正対応】
 ○本学では、これまで教員採用時に大学院指導資格を審査することを基本とし、採用後の指導資格更新は任意であった。しかしながら、30年度新たに大学院美術工芸研究科における教員指導資格審査基準に基づき、学外有識者を含む大学院指導資格審査会を立ち上げ、全教員に審査を受けることを課した上で、現行の修士課程及び博士後期課程における個々の教員の基礎判定を行った。その結果を基に教育研究審議会において内容を審査し指導資格を決定することで、大学院改革を視野に置いた指導体制の厳格化を図った。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標	ア 教育拠点として位置づけられる学部教育、研究拠点として位置づけられる大学院教育において、それぞれの目標を達成するために必要な組織の見直しを行い、教員の適正配置を行う。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 学生による授業アンケートに基づく教員の授業改善計画書を作成、公開し、授業改善を推進する。	(イ) 引き続き、授業アンケートに基づく教員の授業改善計画書の作成、公開を実施する。	○学生の授業アンケートを実施し、その集計結果の反映・改善について教員各自及び各科・専攻で検討後、授業改善計画書を作成し、学生目線での改善に結びつけることが出来た。例えば、版画の授業では腐食時の待ち時間を有効に使うための資料を準備する、デザインの授業ではデザインサンプルを充実させるなど、31年度に向けた具体的な対策が挙げられた。なお、授業改善計画書は、学生が自由に閲覧できるよう、事務局窓口で引き続き公開した。	Ⅲ		25


【質問・意見等】
 作成・公表率の実績〇%を記述すること。



【修正回答】
 (2つ目の〇として以下を追加)
○なお、作成した授業改善計画書については100%公表しているが、計画書の作成率は60～70%にとどまっていることから、今後は作成率の向上に努め、より一層の授業改善に繋げたい。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標 ア 教育拠点として位置づけられる学部教育、研究拠点として位置づけられる大学院教育において、それぞれの目標を達成するために必要な組織の見直しを行い、教員の適正配置を行う。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>〔質問・意見等〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任以外の教員も各種研修会に参加していることが分かるように記述すること。 ・学外での研修内容を持ち帰って学内で伝達する仕組みがあれば記述すること。 	<p>(ウ) 教務委員会、学生支援委員会、学生相談室及び事務局が連携し、また必要に応じて自己点検・評価実施運営会議等とも連携して、組織的な研修活動（FD・SD活動）を実施する。</p>	<p>○自己点検・評価実施運営会議が学生の授業アンケートを実施した。 ○教務委員会では、随時、休学者・退学者・留年者を含む単位未修得者について各科・専攻からの説明を求め、学生個々の状況の把握と共有化に努めた。また、教務委員会、学生支援委員会の合同会議を開催し、学生相談室、事務局も交えて、学生の実態と対応策を検討した。 ○新任教職員に対して、初任者研修を開催し、「学生との接し方」等について、学長及び担当職員から説明があった。 ○新任教員に対して学生相談室の場所と役割を周知するために、個別研修を行った。学生相談室担当からは5月に行った学生精神健康調査（UPI）の結果について、例年よりリスクの高い学生が多かったとの報告があったため、この状況を共有し、学生の動向を注意しながら見守っていくことにした。 ○その他11月8日には外部講師を招き、全教職員を対象に、通常の学生生活が心配される状態にある学生への対応の仕方について演習形式の研修や、2月21日には2回目の合同会議を開催し、退学者及び休学者の状況の情報共有を図った。</p>	<p>Ⅲ</p>		<p>資料21-1 資料21-2 資料21-3 資料21-4 資料78</p>
<p>〔修正回答〕 (4つ目の○と5つ目の○の間に以下の○を追加) <u>○一方、新任以外の教職員については、教員は研究不正防止研修会や全国学生相談研修会など、職員は文部科学省主催の入試改革に伴う「大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会」や「高等教育の負担軽減方策に関する市町村との意見交換会」に参加し、専門的知識の向上や大学改革に向けた情報を収集した上で、その内容を学内で伝達研修を実施することにより、情報共有にも努めた。更に、職員の年齢・経験年数、担当業務に応じ「自学自習」を中心とした研修計画のもと、自校研修から高等教育に関する知識まで、幅広い研修を行うなど充実化を図っている。</u></p>					

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (3) 学生への支援に関する目標

中期目標 イ メンタルヘルスを含む健康管理支援体制及び生活支援体制を継続的に検証し、充実させる。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(I) 学生代表と学生支援委員会教員等との意見交換を行い、学生支援の総合的な充実に役立てる。	(キ) 学生の意見を直に聴取するために、学生代表と学生支援委員会教員、学生支援担当の教育研究審議会委員、教務学生担当理事等との意見交換会を実施する。	○学生自治会執行部と学生支援委員会教員、教育研究審議会委員、理事、学生相談室の学習支援アドバイザーによる意見交換会を2回実施した（7月20日、12月27日）。自治会が意見箱等を通して学生達から集めた要望を確認し、その対応策について意見交換を行った。 ○意見交換の結果を受けて30年度は、駐輪場の拡充、美大ホール前の外灯の増設、彫刻専攻教室内の空調設備設置などの環境改善を行った。 ○他大学との交流（五芸祭）、体育祭、美大祭など学生の自主的活動の支援を学生自治会の要望に応じ行った。	IV Ⅲ		資料28-1 資料28-2 資料28-3

【質問・意見等】

意見交換会を実施しただけでなく、そこで聴取した学生の意見・要望を教育環境の改善等に繋げた点を考慮し、IV評価に修正すること。




【対応】

文面変更なし。

【自己評価IVに変更】

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標 ア 芸術の分野において、地域の文化を振興し、また国際的な交流を促進する研究を行い、研究拠点を形成する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
<p>(7) 金沢をはじめとする地域文化について、本学独自の視点による高度な水準の研究に取り組み、その成果を公開する。</p> <div data-bbox="91 922 779 1129" style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔質問・意見等〕 どこがどのように研究の要素なのか、直接的に分かりやすく記述すること。(芸術系の分野は文系・理系に比べて研究の側面が見えづらい)</p> </div> <div data-bbox="481 1129 600 1241" style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <p>(次頁へ)</p>	<p>(7) 「平成の百工比照」収集作成事業として、引き続き漆工・陶磁・染織・金工の各分野の収集・整理を進め、工芸技術記録映像を作成するとともに、金沢の地域文化の発展に資する教員の研究に取り組む。</p>	<p>○金沢の地域文化の発展のためには、ものづくりにおける素材と技術、工程を学ぶ教育を充実させることが必要である。このため、本学の美術工芸研究所では「平成の百工比照収集事業」を実施している。</p> <p>○陶磁分野では、映像資料として4K画質による九谷焼の「色絵磁器」「赤絵細描」「赤地金彩」の三技法について技術記録映像を制作し、技術の保存・PRを行った。</p> <p>○また、美術工芸研究所ギャラリーにおいては、これまで同様、百工比照資料を常設展示し、学生や市民の自由な閲覧を可能とした他、これまでに制作した「漆」「染織」の技術記録映像の常時公開を行った。</p> <p>○更に、本学の教員や学芸員を中心に、百工比照の全国発信に向けての研究に取り組み、国立民族学博物館特別展「工芸継承 東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在展」において、百工比照資料を展示することで、全国に向け本学の取り組みを発信した他、市内においても同展の一部巡回展示やワークショップ、工芸交流会を行うことで、地域文化の研究水準の向上に大きく寄与することとなった。</p>	IV		資料5-1 資料41

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標 ア 芸術の分野において、地域の文化を振興し、また国際的な交流を促進する研究を行い、研究拠点を形成する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
		<p>【修正対応】(前頁より) ○本学の美術工芸研究所では「平成の百工比照収集事業」を実施しており、金沢の地域文化の発展のために、ものづくりにおける素材と技術、工程を学ぶ教育を充実させる研究に取り組んでいる。 ○陶磁分野では、映像資料として4K画質による九谷焼の「色絵磁器」「赤絵細描」「赤地金彩」の三技法について技術記録映像を制作し、伝統技術の保存に関する研究を行った。 ○また、美術工芸研究所ギャラリーにおいては、これまで同様、百工比照資料を常設展示し、学生や市民の自由な閲覧を可能とした他、これまでに制作した「漆」「染織」の技術記録映像の常時公開を行った。 ○更に、国立民族学博物館特別展「工芸継承 東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在展」において、百工比照資料を展示することで、本学の教員や学芸員を中心に、百工比照の全国発信に向けての研究に取り組んだ。加えて、市内においても同展の一部巡回展示やワークショップ、工芸交流会を行うことで、地域における美術系の文化水準を高めた。</p>	IV		資料5-1 資料41

50

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標 ア 芸術の分野において、地域の文化を振興し、また国際的な交流を促進する研究を行い、研究拠点を形成する。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 本学の特色を活かして、芸術・文化等に関する国際的水準の研究に取り組み、その成果を公開する。 <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目番号50と同様に、研究に重きを置いた記述とすること。 ・学生主体の活動(教育分野)ではなく、あくまで研究であることを浮き立たせて記述すること。 </div>	(イ) 珠洲市との連携協定に基づいて、29年度に参加した奥能登国際芸術祭に引き続き、奥能登地域の特性や文化を踏まえた研究活動を継続的に行う。	<p>○豊かな自然環境と人情味あふれる民俗文化が残る奥能登地域の特色をアートで表現することを目的に、大学として金沢美術工芸大学アートプロジェクトチーム「スズプロ」を結成し、作品の制作を通して芸術文化の活性化による地方創生を目指した。</p> <p>○珠洲市との連携協定に基づき、奥能登国際芸術祭において制作したプロジェクト作品は、来場者数が総合2位であったこともあり、飯田地区の明治期に建てられた古民家での保存が決定した。文化財としての価値を有する古民家を活用しつつ、そこに歴史的記憶を現代アートで表現する研究が高く評価され、30年度は、この作品の更なるPRを目指し照明などの整備を行ったほか、定期的な特別公開により、国内外に対し美大の力を発信した。</p> <p>○この他にも、31年3月には奥能登国際芸術祭実行委員会及び金沢21世紀美術館との間で3者協定を締結し、更なる連携強化も図った他、大学では「奥能登国際芸術祭2020」を視野に教員個人や学生グループが奥能登地域の特性や文化を踏まえ、更なる教育の場の広がりや地元との相乗効果を目指す研究活動に繋がった。</p>	IV		資料42 資料43-1 資料43-2

51

【修正対応】

○大学の教員研究として、**金沢美術工芸大学アートプロジェクトチーム「スズプロ」を結成し、作品の制作を通して芸術文化の活性化による地方創生を目指すとともに、豊かな自然環境と人情味あふれる民俗文化が残る奥能登地域の特色をアートで表現する研究に取り組んだ。**

○珠洲市との連携協定に基づき、奥能登国際芸術祭において制作したプロジェクト作品は、来場者数が総合2位であったこともあり、飯田地区の明治期に建てられた古民家での保存が決定した。**30年度は、この作品の更なるPRを目指し照明などの整備を行ったほか、定期的な特別公開により、国内外に対し美大の力を発信したことで、文化財としての価値を有する古民家を活用しつつ、そこに歴史的記憶を現代アートで表現する研究が高く評価された。**

○この他にも、31年3月には奥能登国際芸術祭実行委員会及び金沢21世紀美術館との間で3者協定を締結し、更なる連携強化も図った他、**本学**では「奥能登国際芸術祭2020」を視野に**教員と学生**が奥能登地域の特性や文化を踏まえ、更なる教育の場の広がりや地元との相乗効果を目指す研究活動に繋がった。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (2) 国際化に関する目標

中期目標	海外の大学との交流など、学生や教員による国際交流事業を展開する。また、留学生を積極的に受け入れる。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 外国人留学生の受入れを拡大するため、受入体制、教育体制、環境等の検証を行う。 <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【質問・意見等】 ・研修内容や外国人研修生から出た意見・ニーズ等について、具体的に記述すること。 </div>	(I) 外国人工芸研修員の受入れを実施するとともに、改善を図る。	○30年度は、外国人工芸研修のため中国・清華大学美術学院の教員3名・学生3名を受け入れ、本学の美術工芸研究所ギャラリーにおいて「平成の百工比照」を用いた研修を実施し、東アジア文化都市2018金沢の一環として金沢21世紀美術館で開催した日中韓・国際シンポジウム「工芸×暮らし」に参加するとともに、金沢卯辰山工芸工房と金沢安江金箔工芸館の工房見学とギャラリートークを行った。 ○現行の外国人工芸研修員制度については、工芸研修に対する外国人留学生のニーズに応えるため、31年度から見直すことを教育研究審議会で決定した。	Ⅲ		78

【修正対応】

○30年度は、中国・清華大学美術学院より外国人工芸研修員として教員3名・学生3名を受け入れ、東アジア文化都市2018金沢の国際シンポジウムへの参加や、本学での工芸研修、卯辰山工芸工房や安江金箔工芸館でのレクチャーなど5日間の研修を行った。参加した研修受講者からは、「金沢の工芸作家や研究者との交流を通して、日本の工芸技術の高さや若手の工芸家から人間国宝に至るまで裾野の広い人材育成に感銘を受けた。」との声が上がっていた。
 ○こうした声もあり、現行の外国人工芸研修員制度については、工芸研修に対する外国人留学生のニーズに応えるため、31年度から見直すことを教育研究審議会で決定した。

業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

(1) 運営組織の改善に関する目標

中期目標	社会情勢の変化に迅速かつ的確に対応するとともに、自主自律した大学運営を行うため、理事長(学長)の指導力の下、教職員による柔軟で機動的な大学運営を行う。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(イ) 理事会、経営審議会、教育研究審議会の連携を密にし、学内運営の強化を図るとともに、教授会、研究科委員会を通じて教職員間の情報の共有化を推進する。	(イ) 学内組織の運営機能を強化するために、理事会、経営審議会、教育研究審議会の間で情報の共有化を図るとともに、大学運営のリスク管理に関する体制を整備し、管理を強化する。	○定例の理事会、経営審議会の開催時だけではなく、入学式・卒業式及び開学記念懇親会等にも理事会や経営審議会の外部委員を招き、教育研究審議会委員との意見交換の場を設けることで、情報の共有化を図った。 ○30年度は、新たに内部統制規程の制定をはじめ内部監査規程及び情報セキュリティに関する規程等を策定し、大学運営のリスク管理に関する体制を強化した。 【再掲80】	Ⅲ Ⅳ		資料76

【質問・意見等】

同内容の実績を他の項目でⅣ評価としていることを踏まえれば、当項目ではⅢ評価が妥当である。



【対応】

文面変更なし。

【自己評価Ⅲに変更】

業務運営の改善及び効率化に関する目標
2 事務等の効率化・合理化に関する目標

中期目標	法人の運営に資するため、事務等の適正な効率化及び合理化を行うとともに、労働環境の整備を図る。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	添付資料番号
(7) 事務処理の効率化・合理化を進め、かつ労働環境の整備を図るために、不断の検証、改善を実施する。	(4) 過重労働対策などの労働環境の改善・整備に取り組む。	<p>○31年1月に学割証明書の自動交付機を導入し、多くの学生が申請を行う証明発行時の職員の負担軽減を図った。導入によりこれまで職員が記入・押印等手作業で作成し発行に1~2日を要していたが、学生が自ら暗証番号を入力するだけで即時発行が可能となり労働環境の改善に繋がった。</p> <p>○衛生委員会を中心に、教職員の過重労働の課題等について意見交換を行い、31年度に向け業務分担を見直すなど労働環境改善の推進に取り組んだ。</p> <p>○29年度に引き続き、建物管理業務の一部を金沢市シルバー人材センターに委託し、職員の業務の軽減を図った。</p>	IV Ⅲ		資料75 資料81

〔質問・意見等〕

多方面から職員の業務負担の軽減が図られ、労働環境の改善に繋がった点を踏まえればIV評価が妥当である。



〔修正対応〕

文面変更なし。

【自己評価IVに変更】